

ド化が図られます。

◆豪雪に伴う被害状況等について

今冬は平成18年以来の豪雪となり、それに伴う被害等の状況と対応についてですが、年末から新年にかけては、連日の降雪と氷点下の日が続き除雪車は毎日のように稼働しております。

2月上旬にかけての寒波は、藤琴川が凍りついたことにより流雪溝にも影響を及ぼし、10日間ほど使用できない状態となっておりました。

最大の積雪深となりましたのは、藤里分署観測所で、1月30日の130cmを記録したことから、ビニールハウス十数棟が倒壊の被害を受けています。

1月30日午前9時に雪害対策警戒部を設置し、その後の状況把握により、午後1時には雪害対策本部に切り替えています。2月2日には、雪による建物倒壊防止のため、職員を動員して町内全世帯の住家・非住家の屋根の積雪調査を行い、積雪約1mの世帯には屋根の雪降しを呼びかけ、留守世帯にはチラシを配布して注意を促しています。

空き家につきましては、追跡調査を実施し所有者及び管理人に対し連絡を取るなどの措置を講じました。

また、雪降しの事故防止と住民の安全管理意識の向上を図るため消防署藤里分署員の指導により雪降し講習会を実施しています。

2月13日には、積雪深も96cmとなり少し落ち着いたことから雪害対策本部を解

散し、雪害対策警戒部へ切り替えています。

なお、豪雪による被害状況については、特に1月29日から30日にかけての大雪でビニールハウス19棟倒壊のほか、農産物被害を含めて約1,270万円の被害額となっています。

人的被害については、屋根からの転落等による事故2件で、2名が負傷しています。

また、住家の被害については、屋根のひさしが折れるなどの被害は数件あったようですが正式な報告は受けていません。今冬の豪雪の中で、住家の全壊・半壊等の被害がなかったことは、屋根の積雪調査と周知が功を奏したものと考えています。

◆防災用備蓄物資の配備状況について

災害時の主要避難所7箇所に、移動式発電機とそれに付随し2灯式屋外投光器、30mコードリール、20ℓ入りガソリン携行缶、対流式石油ストーブ、また、本部用として、衛星携帯電話一式、毛布60枚、非常食となる乾パン480食分、アルファ米2,500食分、飲料水500ml入りペットボトル480本を配備しました。非常食等については、県の地域防災計画により各市町村に振り分けられた備蓄目標値があり、藤里町は50人分で3食、3日間の備蓄目標値をみたす配備となっています。

なお、発電機の配備については、災害

の際に避難所となる各地区の会館とし、地区活動推進協議会において管理することになりましたので報告します。

◆平成24年度米の生産数量目標について

昨年暮れに、県から市町村別の目標数量が示されています。

平成24・25年度需要見通しでは、従来実績などから4万tが過剰生産となることから、24年度米の生産数量目標は、793万tに設定されました。この数量は前年と比べ、率で0・3%、生産数量で2万tの減となっています。

こうした中、秋田県への生産数量目標の配分数量は、前年に比べ3,220t増の443,640tとなりました。

これらは、5年ぶりの増量で、その要因としては、販売戦略に努めたことや東日本大震災により、米の需要が一時的に増加し、県産米の販売が好転したことなどによるものです。

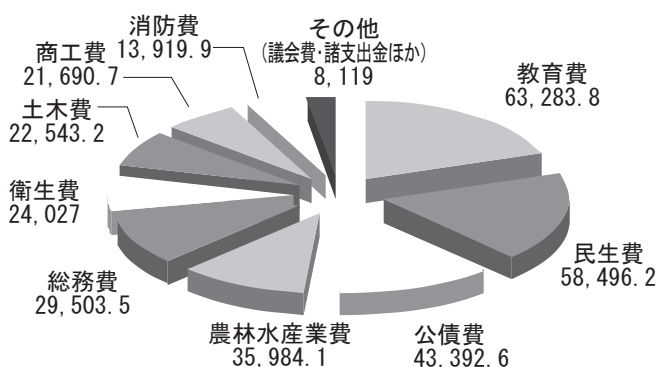
これに対し、藤里町への生産数量目標の配分数量は、前年より8t少ない2,622t、作付面積では、59a少ない473・01haの配分となりました。秋田県への配分数量が増えた中で町への配分が減少した要因は、転作率が県平均を1・2%下回っていることから、市町村間格差縮小の調整等により減少となったものです。

歳出のグラフ（左…目的別、右…性質別）

【予算規模：32億960万円】

（単位：万円）

目的別



性質別

